

第21回日本・スペイン・シンポジウム

2019年11月25～27日

於：バレンシア州カステジョン市

## 「ソサエティ5.0：人間性を中心に据えたテクノロジー社会」

日本・スペイン間の対話

(Technology based human centered Society)

AI、IoTや5Gといった新たなテクノロジーから発生した第4次産業革命（デジタル化）の最終局面は、あらゆる経済セクターにおいて様々な激変が同時に起きているイノベーションの時代である。新たな製品やサービスは、自動車、銀行、小売りといった産業全体を劇的に変化させている。同時にイノベーションは、高齢化した西洋社会が必要としている生産性の向上をもたらす唯一の方法でもある。また、国連のアジェンダ2030に盛り込まれている持続可能な発展を実現するためのコミットメントの中でもとりわけ重要である。

他方、こうした急速な変化に関する倫理的議論は避けられず、関連規制や国際協調の必要性も拡大している。データ推計の歪曲、市民のプライバシーにとっての危険性、雇用におけるデジタル化の影響や、世論操作の新たな手段は、その一例に過ぎない。

日本が生み出したソサエティ5.0というコンセプトは、テクノロジーがもたらす可能性を享受しながら、他方で、明確な目的や人々が実際に必要としていることを中心に据え、開かれたイノベーションの継続的なプロセスの中核に人間を位置づけようとするものである。これは、より連結・団結した社会における新たな経済的・社会的枠組みであり、こうした社会では、社会サービスや医療・交通等が議論の中心となるべきである。

大きなテーマとしてのこのソサエティ5.0のコンセプトを起点に、その重要な項目について、日本・スペイン・フォーラムは、日西間で関連の対話を行い、グッドプラクティスを交換する場を提供する。

日本とスペインの有識者は、テクノロジーの開発、特に人工知能の開発に倫理的側面を含める必要性、開かれたイノベーションのエコシステム発展を促す方法の模索とソサエティ5.0が必要とする製品やサービスを生み出す新たな産業の発展、そして、若者の平均寿命が100歳となるような社会にテクノロジーをどう活用するか、といったテーマについて議論を行う。

議論の背景としては、世界的なテクノロジー・貿易摩擦、新たな地政学的対立、E

U・日本間の相互理解の深まりを念頭に置く。EU及び日本は、多国間主義の擁護や規則や共通の価値観に基づいた国際的協調の擁護、デジタルエコノミーを含めるといって WTO 改革の必要性といった様々なテーマにおいて立場を理解し合っている。

## 日程

### 11月25日

19:30 カステジョン市長主催歓迎レセプション

(於: Masía Fuente La Reina)

### 11月26日

9:00~9:30 開会式

- アンパロ・マルコ カステジョン・デ・ラ・プラナ市長
- 平松賢司 日本国特命全権大使
- 佐藤義雄 住友生命保険取締役会長、日本・スペイン・シンポジウム・日本側座長
- ジョセップ・ピケ 西日財団理事長、日本・スペイン・シンポジウム・スペイン側座長
- 金杉憲治 外務省外務審議官
- フェルナンド・マルティン・バレンスエラ スペイン外交長官
- チモ・プッチ バレンシア州知事

### 第1部: グローバルな視点

9:45~10:45

セッション1「テクノロジーとグローバルなパワー・バランス」

データエコノミーは新たな枠組みへ、そして、データは生産力のある新たな資源へと急速に変化している。その証として、AIの源でもあるデータの国際的な流通は、プライバシーや国家安全保障の問題、あるいは単に保護主義的な立場から、多くの国々で規制の対象となっている。こうした制限のネガティブな影響を抑えるため、G20大阪サミットでは、日本がリードする Data free flow with Trust のコンセプトが導入された。

こうした先進的な経済や社会の急激な変化に並行し、各国は、新たなテクノロジー(AI、IoT、5G等)やそれに必要なインフラ整備の重要性を考慮し、世界における主導的立場を維持あるいは獲得するための新たな戦略を策定している。

このように、各国の地政学的国力は、時の経過とともに、益々、AIといった分野における力と直接結びついたものとなるだろう。

こうした新たなグローバル・バランスにおける地位をしかるべく維持するために、

EUと日本が直面する課題は何か。

【モデレーター】：アナ・フエンテ ジャーナリスト、元アジア駐在員、エル・パイ  
ス紙コラムニスト

【パネリスト】：

- ジョセップ・ピケ 西日財団理事長、元外相、地政学・地経済の専門家、「我々に訪れる世界」著者
- 伊藤元重 東京大学名誉教授、学習院大学国際社会科学部教授

10：45～11：15 コーヒー・ブレイク

11：15～11：45

セッション2「倫理と人工知能：人間性を重視したテクノロジーに向けて」

人工知能は、その他のテクノロジーと同様、倫理的観点からいえば中立的であり、それは技術をどう使用するかによる。しかし、「新たな電力」とも呼ばれるAI関連の脅威は唯一無二的である。それはなぜか。これには、その規模とプロセスの透明性の欠如が関係している。つまり、処理手段に利用されているデータやその結果ははっきりしているが、どのようにしてその結論に至ったかは不明である。AIは重要な局面を迎えており、今こそ、その開発において倫理的議論を取り入れる時である。人類の善のために人工知能が活用されるにはどうすればよいか。将来を決定づけるテクノロジーの開発において、どのようにして倫理的議論を取り入れることができるか。

- ヌリア・オリベル博士 *Data-Pop Alliance y Royal Academy of Engineering of Spain*との対話
- モデレーター：ダビッド・ペレイラ *EVERIS Head of Data & Intelligence for Europe and Head of NTT DATA AI Center of Excellence*

## **第2部：イノベーション・エコシステムの促進**

12：00～13：30

セッション3「起業とイノベーションのエコシステムの促進」

スペインの挑戦は、経済における新たな潮流においても、欧州第4の経済に相応しい地位を占めることにある。イノベーション及び起業が、新たな生産モデルの梃子として機能することを目指している。そのためにスペインは、資本の誘致、デジタル企業やスタートアップ企業の国際化支援、全世界からの優秀な才能の引き寄せ、そして障壁を作るのではなく起業を後押しする国家の構築という、4つの課題をクリアしな

ければならない。

他方、日本では近年、日本を変革させている社会的・経済的変化のおかげで、スタートアップのエコシステムはより速く成長している。日本におけるスタートアップ企業の創設を促進するため、経済産業省、ジェトロ及びNEDOが推進している「J-Startup」のようなイニシアティブが存在する。

では、社会の起業精神や革新的意欲を後押しするために、公共政策は何ができるか。アイデア、知識、企業家及びファイナンスを統合したエコシステムの発展を後押しするにはどうすればよいか。

【モデレーター】：エステル・モリーナ スタートアップ・起業・テクノロジーを専門とするジャーナリスト（EFE 通信、フォーブズ、El País Retina）

【パネリスト】：

- マリア・ベンフメア Spain Start Up 創設者及びCEO
- 倉原直美 Infostellar 共同創設者兼 CEO
- ハビエル・メヒアス BANKINTER イノベーション財団ベンチャーダイレクター
- 加藤辰也 JETROマドリード所長

13：30～14：30 非公式昼食会

14：30～14：45

対話「都市外交：実用的なケース」

カステジョン・デ・ラ・プラナ市は、スペインに投資した主要な日本企業の一つである宇部興産の受入れ都市である。同企業による投資を契機として、カステジョン市は宇部市との豊かな自治体間交流を育み、最近姉妹都市交流に合意した。本件対話は、両都市間交流のケースを基に、文化的、学術的その他あらゆる種類のイニシアティブの形態での都市外交が有する潜在的インパクトを探る。

【モデレーター】：エステル・モリーナ スタートアップ・起業・テクノロジーを専門とするジャーナリスト（EFE 通信、フォーブズ、El País Retina）

【発言者】：

- アンパロ・マルコ カステジョン・デ・ラ・プラナ市長
- ブルーノ・デ・ビエブレ スペイン宇部興産社長

15：00～16：30

セッション4「イノベーションの中心地：スペインと日本に“シリコンバレー”を

## 創設するには何が不足しているのか」

2019年2月、バルセロナで発表された「Startup Ecosystem Overview」によれば、マドリード及びバルセロナは、ロンドン、パリ、ベルリン、アムステルダムといったその他の欧州都市と並んで、イノベーションの企業家から注目される場所として定着しつつある。マドリードは、スタートアップ企業の創設数において既に欧州第5位の都市である。バルセロナは新しい企業の成長において傑出しており、資本誘致欧州第5位の位置を占める。

日本は、安倍総理が2015年のシリコンバレー訪問時に指摘したように、同都市の活力をつかみ、それを日本経済の活性化につなげたいとしている。日本には、明確にシリコンバレーのレプリカと呼べるような都市は存在しないが、テクノロジーのハブ都市として主張できる都市は多くある。福岡、京都または東京渋谷区といった場所は、テクノロジー系スタートアップ分野において活力を増しており、シリコンバレーの複製都市を目指せるかもしれない。

日本とスペインの都市は、才能や資本を集めるための競争にどう立ち向かっているか。イノベーションの中心地はどのようにして構築されるか。

【モデレーター】: エステル・モリーナ スタートアップ・起業・テクノロジーを専門とするジャーナリスト (EFE 通信、フォーブズ、El País Retina)

【パネリスト】:

- セシリオ・セルダン マドリード市協力・グローバル市民局長
- ロレンソ・ディ・ピエトロ Barcelona Activa 起業・企業・イノベーション担当エグゼクティブ・ダイレクター
- 山下晃正 京都府副知事
- 鈴木順也 福岡市総務企画局理事

### **第3部：テクノロジーとソサエティ 5.0**

16:30～17:15

#### セッション5 「ソサエティ 5.0、長寿人口のためのデジタル社会」

日本の人口の26.3%は65歳以上であり、日本は世界一の高齢人口である。また、スペインの65歳以上の人口は19.1%である。しかし、この現象はある国に限られた事象ではなく世界的な傾向（2050年の65歳以上の人口は20%以上）であり、両国の経験は非常に重要である。日本が生み出したソサエティ 5.0というコンセプトは、人口問題や経済課題に対処する一方で、充実した人生を送るために必要な需要に応えられるよう、デジタル化を社会全体に広げ、これを最大限活用しようというものである。つまり、社会に奉仕したデジタル化を意味する。日本経団連によれば、省庁間縦割りの壁、法制度の壁、テクノロジーの壁、人材の壁、社会受容の壁

という「5つの壁を突破する」必要がある。

デジタル社会の中心に、人間と人間の需要を位置づけるにはどうすればいいか。将来の公共政策（医療や介護）はどのようにデザインするか。その発展において、官民間の協力や必要な連携はどのように得られるか。

【モデレーター】：エステル・モリーナ スタートアップ・起業・テクノロジーを専門とするジャーナリスト（EFE 通信、フォーブズ、El País Retina）

【パネリスト】：

- 佐藤義雄 日本・スペイン・シンポジウム日本側座長、住友生命保険取締役会長、日本経団連ヨーロッパ地域委員会委員長
- マヌエル・ゴンサレス・ベディア サラゴサ大学教授（認識科学）

17：30～17：45 日本・スペイン・シンポジウム両座長による閉会の挨拶

- 佐藤義雄 日本・スペイン・シンポジウム日本側座長、住友生命保険取締役会長、日本経団連ヨーロッパ地域委員会委員長
- ジョセップ・ピケ 西日財団理事長、日本・スペイン・シンポジウム・スペイン側座長
- 山下晃正 京都府福知事

20：30 カステジョン港湾局主催夕食会

(Espacio Opal. カステジョン港)

- フランシスコ・トレド カステジョン港湾局長挨拶

**11月27日**

(以下は、日本側代表団、パネリスト、西日財団理事メンバーのみが対象)

9：30 PORCELANOSA 社訪問

10：30 バレンシアに向け出発

11：30 Mercadona の「MARINA DE EMPRESAS」訪問

- 施設の紹介及び視察
- 日本及びスペインの Start Up Pitches セッション
  - ◆ 榊原裕高 株式会社氷感サプライ
  - ◆ スペイン・スタートアップ企業 Lanzadera de Empresas (Marina)

13：30 バレンシア商工会議所主催送別昼食会 (於:Edificio Veles e Vents)

- ホセ・ビセンテ・モラタ バレンシア商工会議所会頭

- 佐藤義雄 日本・スペイン・シンポジウム日本側座長、住友生命保険取締役会長、日本経団連ヨーロッパ地域委員会委員長
- ジョセップ・ピケ 西日財団理事長、日本・スペイン・シンポジウム・スペイン側座長

シンポジウム終了